

## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

イベント名	世界の水災害リスク軽減に向けた取り組み
主催者	(独)土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター(ICCHARM)、国際洪水ネットワーク(IF-Net)
開催日	2007年12月 <input type="checkbox"/> 1日 <input checked="" type="checkbox"/> 2日 <input checked="" type="checkbox"/> 3日 <input type="checkbox"/> 4日 <input type="checkbox"/> 5日
開催時間	13:30～18:00
開催場所	<input checked="" type="checkbox"/> 別府市内 <input type="checkbox"/> 大分県内 <input type="checkbox"/> その他
会場名	ビーコンプラザ 臨時会議室 1
参加人数	50名

### 開催概要 (900字以内)

水関連災害は、人類の持続可能な開発、貧困の削減に向け克服すべき課題の一つで、近年、人口増加、資産の集中・高度化に伴い被害・影響が増加しています。

河川整備が十分ではない諸国においては、水災害に関する人的被害軽減の観点から、災害時における住民避難等の行動が確実に行われることが重要です。このためには、ハザードマップ等による危険性の周知や、洪水予警報の発令による避難の有無の判断が必要となります。しかしながら、費用的な問題や降雨情報の不足等の理由により、洪水予警報システムの整備が十分に進んでいない状況にあります。

ICCHARM および IF-Net では、水文データの乏しい地域において、迅速・効率的に洪水予警報システムの構築が可能となるよう、観測衛星からの降雨情報を活用した洪水予測プログラムの開発を行っています。このシステムでは、観測衛星による降雨情報を利用するとともに、モデル作成機能、流出解析エンジン、入出力インターフェース、結果表示機能を装備しています。

今回は、第1回アジア・太平洋水サミットのオープンイベントの一つとして、これまでに開発した観測衛星からの降雨情報を活用した洪水予測プログラムについて、開発の背景や主な機能だけでなく、実際にデモンストレーションを行い、国内外の参加者に紹介を行いました。



## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

### 日本水フォーラムに期待すること（600字以内）

### その他（オープンイベントを開催した感想、今後の予定など、600字以内）

水文データの乏しい地域においても、今回紹介した洪水予測プログラムを活用することにより、迅速・効率的に洪水予警報システムの構築が可能となり、水災害リスクの軽減につながるものと考えられます。

ICHARM および IF-Net では、今後も開発を継続し、予測精度を向上させるとともに、地域のニーズにあったシステムとなるよう今回紹介した洪水予測プログラムの改良を行う予定です。

